

週間展望・回顧(豪ドル、南ア・ランド)

October 1, 2021

豪ドル、RBA と RBNZ の動向に注目

- ◆RBA は据え置き、RBNZ は利上げ予想。豪ドル/NZ ドルの動きに注目
- ◆豪ドル、コモディティの動きや中国恒大集団リスクに要注意
- ◆ZAR、雇用における格差拡大のカントリーリスクが中長期的な問題に

予想レンジ

豪ドル円 77.00-82.00 円

南ア・ランド円 7.10-7.60 円

10月4日週の展望

豪ドルの上値は限られるか。今週の豪ドルは鉄鉱石を中心としたコモディティ価格の動きで上下したが、来週も同様の動きが予想される。一部では鉄鉱石価格が10ドル下落すると、豪州の名目GDPが65億豪ドル下がり、13億豪ドルの税収減になるというデータもある。コモディティ通貨と言われる豪州にとっては、コモディティ価格の動きが豪ドルに大きな影響を与える。

豪国内では5日の豪準備銀行(RBA)理事会に注目。前回9月の理事会では、週50億豪ドルから週40億豪ドルの割合に国債買い入れを引き下げることと決定。一方で、11月中旬までとした買い入れ期間を2022年2月までとした。先月変更したばかりとあって、市場では今回の理事会は無風との予想が多い。ただし、中国恒大集団などを含め世界的なリスク要因について、声明文の内容に変更があれば豪ドルが動意づく可能性はある。また、翌6日にはNZ準備銀行(RBNZ)が金融政策委員会(MPC)で政策金利を発表する。NZでは不動産バブルが深刻なため、先月下旬に住宅市場抑制のために、ローン資産価値比率(LVR)制限を強化すると発表している。LVRの制限だけでは不動産バブルを解決できないとの見方が強いなか、前回の会合では新型コロナウイルスの感染拡大によるロックダウン再開を理由に政策金利を据え置いたが、今回は利上げ期待が高い。RBAとRBNZの高官発言からも、目先の金融政策の方向性の違いが明白となっている。豪ドル/NZドルが再び大きく売られる可能性もありそうだ。なお、豪州からは5日に貿易収支も発表される。

国外要因では、中国市場が国慶節で7日まで休場となる。休場明けまで、デフォルトの可能性が指摘される中国の不動産開発大手・恒大集団に関して、新たなネガティブなニュースが出てこなければ、豪ドルにとっては支えとなるかもしれない。

南アフリカ・ランド(ZAR)はもみ合いか。中国恒大集団のデフォルトが避けられた場合でも、中国経済の停滞を予測する声も多い。コモディティ価格がこれまでのように大きく上げトレンドに戻るのが難しくなるようであれば、ZARの抑えになる。また、南アの四半期雇用統計調査では、4-6月期は前期比で8万6千人の非農業部門の雇用減となった。一方で、従業員の総収入は前期比で横ばいだったものの、前年比では11%上昇した。失業率は悪化傾向である反面、雇用についている人たちの給料が上がり、格差が拡大している。国民の不満は高まっており、7月のようなデモからの暴動につながる可能性もある。こういったカントリーリスクには注意をしておきたい。

9月27日週の回顧

豪ドルは対ドルでは下落し、対円ではほぼ横ばいだった。前週の米連邦公開市場委員会(FOMC)で11月のテーパリング期待が高まり、米金利高によるドル買い・豪ドル売りが優勢となった。ドル全面高だったこともあり、豪ドル円はほぼ横ばいの動きとなった。

ZARも対ドルでは弱含み、対円でも上値が抑えられた。ドル全面高となったことで、ZARは対ドルでは8月後半の水準まで売られた。(了)